

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100150		
法人名	株式会社共寿		
事業所名	グループホーム第二江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外渕4丁目101番地		
自己評価作成日	平成24年7月10日	評価結果市町村受理日	平成24年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/1/ndex.php?acti_on_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&lgvossyoCd=2192100150-00&PrfCd=21&VerSi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成24年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の尊厳が守られるケアを念頭に置きながら、その方らしく暮らしていただける環境づくりに配慮している。R258号線に立地している施設ですが、危険だからと閉じ込めるのではなく、裏手に広がる住宅街を散歩したり、喫茶店へ行ったりと、天気の良い日には、外出支援に努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スタッフの意見を取り入れた理念を目指した取り組みがあちこちに見られ、意欲の向上が見受けられる。管理者、職員は安全に配慮し、笑顔を忘れず楽しく過ごせるように接し、相手に不満、不穏があれば、気持ちを察知し、時間をかけて思いに添うように対応している。家族の意見を取り入れ、外出支援を中心に思いを実行しようと取り組んでいる。災害対策は、外部評価を顕著に受け止めて、早朝の避難訓練、消防署立ち合いの訓練を行っている。また、近くの中学校の部活観戦や、保育園の園庭に咲くさくらの花見など、地域に密着した何気ない関わりを大切に、ホームの行事への参加を地域に呼びかけ、気軽に立ち寄れるホームづくりを目指している。立地条件的に治安の観点から、警察署職員からのアドバイスを守り、安全対策範囲での施錠をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営の理念、職員の心得を制定している。月1度の職員会議の冒頭に全職員による運営理念、職員の心得を朗唱している。又、目につく場所に理念を掲げて、意義の高揚に努めている。	全スタッフで決めた理念を会議時に、議事に入る前に朗唱して認識を深めている。管理者、職員は、理念に沿い、笑顔を忘れず思いやりの心を持って利用者楽しく過ごしてもらえるよう実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の体育振興階主催のヘルシーウォーク交流階の参加や保育園児との交流を行っている。又施設周辺の散歩を通じ、地域住民と交流を図っている。	花見、運動会、ヘルシーウォーク等の地域行事に参加している。日常的な散歩では、挨拶や言葉を交わすなど地域の人々と関りができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の参加者として、自治会長、民生委員、駐在所の方々をお願いしている。会議の中で、事業所の有様をお話して、相互理解につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、地震対策、災害対策、避難方法についてのご意見をいただいた。地域との連携や、駐在所の方の意見を参考にサービス向上を目指している。	災害対策や避難方法について話し合った。出された意見より非常時に誰でもわかるように写真入りの「入所リスト」を作った。しかし、サービス評価への取り組み状況等について話し合いがなされていない。	運営推進会議のメンバーにモニター役となってもらい、評価の結果や具体的な改善課題を話し合い、更にサービス向上に活かされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の方々とは、日頃から、困難事例についての相談や、アクシデント報告を行い提言や、指導を受けている。	運営推進会議では、アクシデント報告を行い、指導、助言を受けている。ホームより行事案内等を出しているが、市町村職員の出席を得るまでに至っていない。	運営推進会議への出席だけでなくホームの行事や様々な機会を通し協力関係を築かれる事を期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員とは常に身体拘束をしないケアについて話し合いをしている。月1回の職員会議時にも全員が熟知できるよう勉強会を開いている。	ホーム内研修として、全スタッフを対象に研修を行っている。身体拘束をしないケアを目指して実践している。外に出ようとしたり落ち着かない利用者には、行動を把握し、職員と一緒に外に出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時に高齢者虐待防止について研修を行っている。又、外部研修に職員を派遣し、研修後には報告会を行なって、全職員に対して指導を強化している。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、専門講習に参加して学んでいる。現在職員個々にて、認知症講習会等にて学んでいる。その報告を会議で行ったり、日々の職務の中で見つめ直し理解をと活用をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業者のケアに関する取り組み、医療の連携体制、利用料金のシステム、又退所を含めた事業所の対応可能な範囲について、詳しく説明し理解を得よう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時等には、常に家人の意見をお聞きできるように努力している。以前「外出の機会を増やしてほしい」との意見があり、個別ケアにて、外出支援に取り組んでいる。	家族の面会時に意見を聞き、会議で検討し実践できるように努めている。家族からリハビリの要望があり、職員が専門職の指導を受けて、日常生活の中で手作業や習字を取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個別面談の他に、適時職員より意見をもらったり話し合いの機会を作っている。グループ事業所の合同会議も開かれ運営に関する提案や意見を出し合い、より良い事業所を目指している。	日頃から、気付いた点をリーダーに報告することで実践に向けた検討が行われる仕組みができています。利用者の状態に合わせた勤務体制にするという意見を取り入れ実践に移した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議において、就業規則及びキャリアパスの説明を行い、資格取得に向けた支援と、研修勉強会の参加を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会の情報を入手したら全職員に向けて、発信し多くの職員が受講できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にグループホーム連絡会があり、その中で様々な研修や勉強会を開いている。他事業所のケアマネさんとの交流も行い、学びをサービスの向上に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努め、本人の思い、要望等に少しでも近づけるようケアマネ、スタッフが各自努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族、親族の方の不安に対し、小さなことでも、聞き取りをするように心がけている。本人と家族間で、違う意見であっても、理解、解決できるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提供、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら、必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側という意識を持たず尊厳を大切にしながら、生活文化の知恵等教えてもらい、喜怒哀楽を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子を細かく家族に伝えて、日々の生活を健やかに過ごせる支援と一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年のお付き合いの方々との関係を絶つことないように、外出の支援を行っている。(美容院、墓参り、喫茶店、買い物等) 家人の付き添いが無理の場合ケアマネもしくは、看護師が同行している。	馴染みの喫茶店、実家の仏壇や墓参り、足湯など家族の協力を得て実施している。利用者を車に乗せる際、不安な時は指導を行い、家族が遠方、都合の悪い時は、職員が付き添うなど家族と相談し、できる範囲での支援を実行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、仲良く、楽しく支えあいながら過ごせるよう、常にお声かけを行い一緒に食事やお茶の時間をもうけている。個々の時間も大事にしているが、多人数の関わりも大事にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方、在宅に戻られた方には、一度は面会に伺っている。又、「遊びに来てくださいね」「何かあったら、相談に乗りますよ」と安心できる声かけに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、思い、希望を把握するように努めている。スタッフにも気がついたことがあれば、[全員で寄り添うことができるか]、前向きに話し合っている。	「とことん聞きましょう」の姿勢で、日常の様子から掴む努力をしている。不穏な利用者と一緒に入浴をすることで落ち着かれたという臨機応変な対応もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を知ることはプライバシーにも関係してくるので、配慮を忘れずに情報の収集を行い、今後の[その人らしい生き方の支援の取り組み]につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らし方は個々に違うため、生活のリズム(食事、睡眠、トイレ)を各スタッフが把握に努め、その方の出来る力を大事に伸ばしていく方向性で支援していく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議で本人、家族、ナース等と話し合いを行い、よりよく暮らせるための課題やケアについてアイデアを出し合い、介護計画の作成を行っている。	3か月毎、または体調の変化があった時、家族の都合の良い日に合わせ会議を行っている。経口摂取が難しくなったが、家族は胃ろうにすることに消極的という事例に対して、食べやすい工夫をして経口摂取を継続するなど介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録として計画に沿って全員で記入をしている。情報の共有と統一介護をモットーに勤務開始前の確認も義務づけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院及び公共機関への送迎など、必要な支援はご家族と連携し柔軟な対応をしている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に行政、消防署、自治会長、民生委員、駐在所に引き続き参加をお願いして地域と連携をはかり良好な関係を築いていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調不良時はかかりつけ医に報告して指示を仰ぎ、迅速な対応を心掛けている。また、月二回の往診を行っており、体調管理に努めている。	体調不良時には家族に連絡、相談して受診を勧めている。希望するかかりつけ医に受診した場合は、その報告を受けるといった連携が取れている。また、協力医より月2回の訪問診療を受け健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常に利用所の体調を把握し情報収集に努め体調管理を行っている。看護師がいない時は、他の事業所の看護師と連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医師や入院先の看護師と情報を共有し、退院に向けて看護師や管理者が見舞うようにし、ご家族と共に連携を蜜にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を踏まえ、医師、事業所が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるよう意思を確認しながら取り組んでいる。又、日頃からご家族との信頼関係が増幅するよう心掛けている。	入居時に重度化や終末期について説明し、書類で確認をしている。また、症状が悪化した際は、その都度家族に連絡して意向を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応が適切であったか、職員会議のなかで日頃から話し合いや勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、火災通報訓練、避難訓練を行っている。地震時の対応を積極的に行い備蓄品の備えに対して日頃から取り組んでいる。	消防署立ち会いのもと、夜間想定を含め避難訓練を行った。利用者をおぶったり、らせん滑り台を使用したり、竹筒とシーツを使った担架で移動するなど避難訓練を行っている。備蓄品は消費期限のチェックをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の情報収集や外部との情報連携の際には、その情報の個別性や守秘義務について充分理解し、責任ある取り扱いをしている。	入居時に、写真の取り扱い、表札やお便りに載せる際の配慮について説明をしている。排泄時などプライバシーに関する問いかけには、耳元でさりげなく声かけするなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が何を望んでいるか表情や態度に注意している。意思表示が出来ない方には、表情を読み取ったりご家族に同意を求めようとしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の生活の流れはあるが、時間にこだわる過ごし方はしないようにしている。一人ひとりの体調にあわせ、その日その時のご本人の気持ちを尊重し、できるだけ個別性を大事に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ、おしゃれ等を楽しめるように、ご家族と連絡を取り合い、季節に合ったものを着ていただいている。毎月一度、訪問美容師に来てもらいご本人の希望に沿ったカットをお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しいものを楽しく食べる を基本に、個々の好みや苦手なものを踏まえたメニューを工夫し、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食べる雰囲気づくりを大切にしている。	栄養バランスも考え利用者のリクエストを交えた献立に決めている。行事には食事・おやつに工夫がある。しかし、職員と同じテーブルで食事をしながら楽しく会話をしたり、食事の準備や後片づけをする光景は見ることはできなかった。	誤嚥することなく安心して食事ができるような配慮は必要であるが、明るく楽しい食事時間となるような工夫も期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握し、医師より個別に補食品を出して頂いている方も、これだけに頼らず、ご本人のお好きなものや、食べやすい物を希望に沿ってお出しするようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は声かけ見守りをし、できない方には、適時のケアを行っている。又嚥下障害による肺炎の防止にも努めている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、ご利用者の様子から敏感に察知し、身体機能に応じて手を差し伸べたり歩行介助をしている。トイレでの排泄を大事にしながら、紙パンツ、パット類もご本人に合わせて随時支援している。	個別対応を行い、トイレ誘導することで失禁を減らし、入居時にはリハビリパンツを使用していた利用者が布パンツでの生活が可能になった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や腸の働きをよくするため、腹部マッサージをしている。排便困難な場合、医師の指示のもと下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご希望に沿えるように、その日の体調に配慮しながら、個別ケアを用い、気持ちよく入浴していただけるように心がけている。	暑い季節には毎日の入浴も対応している。柚・葉草等を使用して、入浴の楽しみを工夫している。また、皮膚トラブルのある利用者は、入浴回数を増やしたり、発砲スチロールに入浴剤を入れた足浴湯を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠にならないよう、日中の生活リズムを整え、体操、散歩、短時間の休息など、そのときの状況に応じて、支援を行うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や容量が変更されたり、ご本人の状態変化が見られる時は、記録すると共に看護師が医療機関に状態を報告し、適切な対応を行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう出来ること(洗濯、たたみ、お盆ふき等)をやっていただいている。又、外出支援で、散歩、喫茶店、神社への参拝等、積極的に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の希望に沿って、喫茶店、ドライブ、足湯等に出かけている。地域の行事にも参加して、参加賞や粗品をいただけることが、交流のひとつとして楽しみにされている。	月2回は、ボランティアの助けを借りて道の駅・夏祭り、夜にはイルミネーションを見に行くなど外出している。家族からのもっと外出を…という希望に応じる努力をしている。日常的には中学校の部活見学や神社への散歩も行っている。	

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、ご家族ごとに様々な意向をもたれているので、ご本人の思いや安心に向けて所持したい旨の要望があれば、ご家族と相談し少額を持っていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に自ら電話できるようにしている。また、手紙や、はがきの返信、電話の取り次ぎもスムーズに出来るようにして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に環境整備を行い不快感、危険物の除去に勤めるように努力している。外部からの刺激(音、光、臭い等)にも配慮し落ち着いて、居心地よい生活をめざしている。又、季節を感じ取れる、花を飾るようにもしている。	廊下には風景画の刺繍額を飾り、落ち着いた雰囲気を出している。共有空間には、行事や思い出の写真・利用者の作った作品を飾っている。寛げるソファ、音楽を楽しむピアノを置き、家族が弾き音楽を楽しめるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にソファを配置し、自由に使ってもらっている。また、和室の空間では、冬は、掘りごたつとなり、ゆったりと、くつろいでいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、誕生日メッセージカードや写真、お花等馴染みのものを置かれている。ぬいぐるみやテレビを、置かれている方もみえる。自由に使ってもらうことにより、生活に落ちつきをもたらしている。	利用者に合わせた家具配置で、安全に過ごせる配慮がある。また、衣類の仕分けができるように家具に工夫し、おむつは外から見えない配慮がある。しかし、居室内に置かれる物が少なく殺風景である。	入居する前に馴染みの物を持ってきてもらうよう依頼している。継続し、呼びかけや家族と相談するなど本人が更に居心地良く過ごせるような工夫を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって、よりよい環境づくりを追求し状況に合わせて環境整備を行っている。困難なことが見つければ、スタッフ全員で話し合いを持ち、自立支援に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100150		
法人名	株式会社共寿		
事業所名	グループホーム第二江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目101番地		
自己評価作成日	平成24年7月10日	評価結果市町村受理日	平成24年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2010_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192100150-00&Pr_efCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成24年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の尊厳が守られるケアを念頭に置きながら、その方らしく暮らしていただける環境づくりに配慮している。R258号線に立地している施設ですが、危険だからと閉じ込めるのではなく、裏手に広がる住宅街を散歩したり、喫茶店へ行ったりと、天気の良い日には、外出支援に努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営の理念、職員の心得を制定している。月1度の職員会議の冒頭に全職員による運営理念、職員の心得を朗唱している。又、目につく場所に理念を掲げて、意義の高揚に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の体育振興階主催のヘルシーウォーク交流会の参加や保育園児との交流を行っている。又施設周辺の散歩を通じ、地域住民と交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の参加者として、自治会長、民生委員、駐在所の方々にお願いしている。会議の中で、事業所の有様をお話して、相互理解につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、地震対策、災害対策、避難方法についてのご意見をいただいた。地域との連携や、駐在所の方の意見を参考にサービス向上を目指している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の方々とは、日頃から、困難事例についての相談や、アクシデント報告を行い提言や、指導を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員とは常に身体拘束をしないケアについて話し合いをしている。月1回の職員会議時にも全員が熟知できるよう勉強会を開いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時に高齢者虐待防止について研修を行っている。又、外部研修に職員を派遣し、研修後には報告会を行なって、全職員に対して指導を強化している。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、専門講習に参加して学んでいる。現在職員個々にて、認知症講習会等にて学んでいる。その報告を会議で行ったり、日々の職務の中で見つめ直し理解と活用をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業者のケアに関する取り組み、医療の連携体制、利用料金のシステム、又退所を含めた事業所の対応可能な範囲について、詳しく説明し理解を得よう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時等には、常に家人の意見をお聞きできるように努力している。以前「外出の機会を増やしてほしい」との意見があり、以後は個別ケアにて、外出支援に取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個別面談の他に、適時職員より意見をもらったり話し合いの機会を作っている。グループ事業所の合同会議も開かれ、運営に関する提案や意見を出し合い、より良い事業所を目指している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議において、就業規則及びキャリアパスの説明を行い、資格取得に向けた支援と研修勉強会の参加を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会の情報を入手したら全職員に向けて、発信し多くの職員が受講できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にグループホーム連絡会があり、その中で様々な研修や勉強会を開いている。他事業所のケアマネさんとの交流も行い、学びをサービスの向上に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努め、本人の思い、要望等に少しでも近づけるようケアマネ、スタッフが各自努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族、親族の方の不安に対し、小さなことでも、聞き取りをするように心がけている。本人と家族間で、違う意見であっても、理解、解決できるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提供、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら、必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側という意識を持たず尊厳を大切にしながら、生活文化の知恵等教えてもらい、喜怒哀楽を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子を細かく家族に伝えて、日々の生活を健やかに過ごせる支援を一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年のお付き合いの方々との関係を絶つことないように、外出の支援を行っている。(美容院、墓参り、喫茶店、買い物等) 家人の付き添いが無理の場合ケアマネもしくは、看護師が同行している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、仲良く、楽しく支えあいながら過ごせるよう、常にお声かけを行い一緒に食事やお茶の時間をもうけている。個々の時間も大事にしているが、多人数の関わりも大事にしている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方、在宅に戻られた方には、一度は面会に伺っている。又、「遊びに来てくださいね」「何かあったら、相談に乗りますよ」と安心できる声かけに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、思い、希望を把握するように努めている。スタッフにも気がついたことがあれば、[全員で寄り添うことが出来るか]、前向きに話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を知ることはプライバシーにも関係してくるので、配慮を忘れずに情報の収集を行い、今後の[その人らしい生き方の支援の取り組み]につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らし方は個々に違うため、生活のリズム(食事、睡眠、トイレ)を各スタッフが把握に努め、その方の出来る力を大事に伸ばしていく方向性で支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議で本人、家族、ナース等と話し合いを行い、よりよく暮らせるための課題やケアについてアイデアを出し合い、介護計画の作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録として計画に沿って全員で記入をしている。情報の共有と統一介護をモットーに勤務開始前の確認も義務づけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院及び公共機関への送迎など、必要な支援はご家族と連携し柔軟な対応をしている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に行政、消防署、自治会長、民生委員、駐在所に引き続き参加をお願いして地域と連携をはかり良好な関係を築いていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調不良時はかかりつけ医に報告して指示を仰ぎ、迅速な対応を心掛けている。また、月二回の往診を行っており、体調管理に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常に利用所の体調を把握し情報収集に努め体調管理を行っている。看護師がいない時は、他の事業所の看護師と連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医師や入院先の看護師と情報を共用し、退院に向けて看護師や管理者が見舞うようにし、ご家族と共に連携を蜜にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を踏まえ、医師、事業所が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるよう意思を確認しながら取り組んでいる。又、日頃からご家族との信頼関係が増幅するよう心掛けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応が適切であったか、職員会議のなかで日頃から話し合いや勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、火災通報訓練、避難訓練を行っている。地震時の対応を積極的に行い備蓄品の備えに対して日頃から取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の情報収集や外部との情報連携の際には、その情報の個性や守秘義務について充分理解し、責任ある取り扱いをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が何を望んでいるか表情や態度に注意している。意思表示が出来ない方には、表情を読み取ったりご家族に同意を求めようとしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に合わせて、ご本人の気持ちを尊重し、利用者様優先の時間の流れが作れるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整髪やお化粧を望まれる方には、職員が寄り添う支援をしている。女性の利用者はおしゃれな方ばかりで、たんすの中から、一緒にお洋服を選らんで見たり、気配りも忘れないようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事が取れるように旬の食材や好みをお聞きしたり、毎日のチラシを見て買い物に行っている。職員と利用者様が同じテーブルで昼食をとり、大家族の雰囲気も大事にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を記録し、ご本人の希望に少しでも沿えるものを必要量とっていただいている。(補助食品使用あり)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人の力に応じたケア、支援を行っている。残菌の確認もナースにて施行している。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、安心感のある声かけをしながら、少しでも自尿に繋がる支援(紙パンツより、布パンツ。オムツより紙パンツ。なるべくパットを使わず。)を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	申し送りの際に排便の様子と報告、その日の状態を職員全員が把握に努めている。野菜、特に繊維質を多く摂取してもらったり、一日2回のラジオ体操やリハビリ体操の他、腸を動かす体操に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調に合わせて、安全に希望に沿える入浴をしている。ゆず、桃の葉、しょうぶ、どくだみの葉等、季節によっていろいろな湯を提供している。(すべて職員が生のもの持参)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜のメリハリをつけ、日中は散歩、たいそう、歌など、楽しい時間を過ごしていただき安眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や容量が変更されたり、ご本人の状態変化が見られる時は、記録すると共に看護師が医療機関に状態を報告し、適切な対応を行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが出来ること(洗濯、野菜の下ごしらえ等)をやって頂いている。又外出支援で散歩、喫茶店、神社への参拝を行っている。旬の野菜の皮むきや筋取りは季節を感じ取れ、特に好評となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の希望に沿えるように、努力している。(桜見、墓参り、足湯、銀杏拾い、ショッピング、外食。)レクレーションとして、福祉車両を借りて、全員の方の参加に努めている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外食支援の際、レジにて清算をお願いすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に自ら電話できるようにしている。また、手紙や、はがきの返信、電話の取り次ぎもスムーズに出来るようにして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けや、ご本人が作成された作品、外出時や行事の写真のポップなどを展示し、楽しい雰囲気作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にソファを配置し、歩行訓練時の休憩や、テレビ鑑賞などに利用している。また、和室の空間では、冬は、掘りごたつとなり、気のあった仲間同士ゆったりと、くつろいだり、会話しながら野菜の下ごしらえに利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、誕生日メッセージカードや写真、お花等の馴染みのものを置かれている。ソファや仏壇等、置かれている方もみえる。居室内は自由に使ってもらうことにより、生活に落ちつきをもたらしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって、よりよい環境づくりを追求し状況に合わせて環境整備を行っている。困難なことが見つければ、スタッフ全員で話し合いを持ち、自立支援に努めている。		